

きづかいの仕方

(6年)



ゆうしゅうしょう
優秀賞

わたしは、だれかがこまっていると、「どうしたの。」と声をかけることができます。でも、深いところまでしつこく聞いてしまって、逆にめいわくだと思われてしまったことがありました。

あるそうじの時間に、四人でそうじをしていると、その中の二人が毎回何かでもめていました。私が二人に質問をすると、「関係ないのになんで話さないかの。」と言われました。その様子を見ていた残りの一人もこまってしまう、悪い空気のままそうじの時間は終わってしまいました。

「二人のけんかが終われば、みんな気持ちよくそうじができると思ったのに。」その時はそう思っていたけれど、家に帰って考え直してみると、「確かに、自分が同じことをされたらきっとあの子と同じことを思うだろう。」と気づいて、とても罪悪感を感じました。「明日、みんなにあやまって、気持ちよくそうじができるようにしよう。」と考え、次の日みんなにあやまると、二人の仲も少しずつもどっていきました。私は、あやまってよかったと思いました。

このように、こまっている人を気づかうことはとてもよいことだけれど、相手がふみこまれたくないところまでふみこんで、逆に困らせてしまうことがあります。私は、この経験から、相手がいやがっていたら聞くのをやめることと、ふだんからまわりの人を気づかうことを忘れないことの大切さを学ぶことができました。だから、みなさんも、こまっている人を見つけたら、声をかけて、自分にはあまり質問をせず、相手の話をよく聞いて、相手の心に寄り添うことを心がけてほしいと思います。